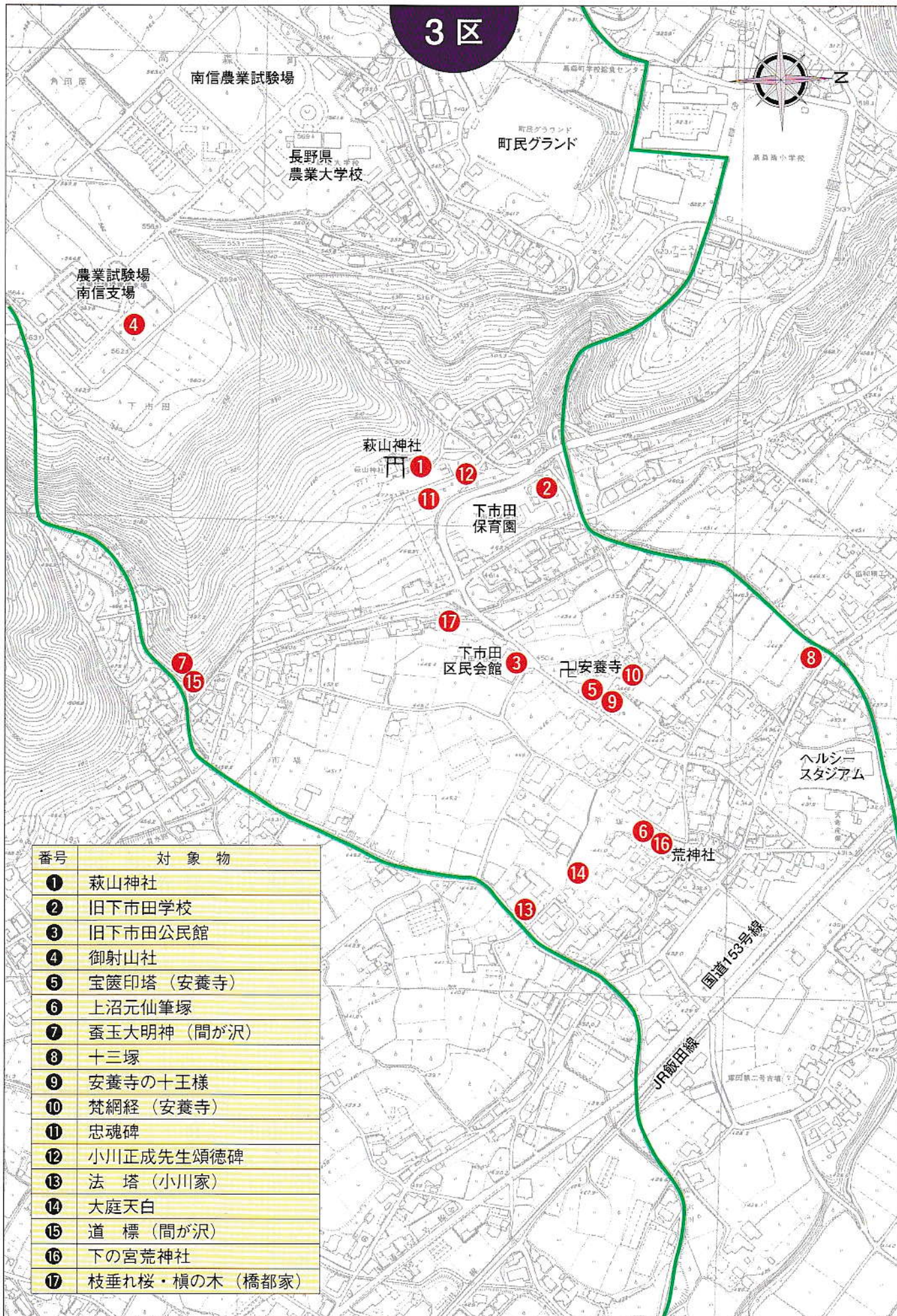


3区



1 萩山神社

〔三区〕

〔所在地〕古瀬

○諏訪神社（本殿） 祭神建御名方命。
 本宮諏訪大社、創建は寿永年代（1182～1185）。松岡第4代領主帯刀が武運長久、領内平安を祈願するために、勧請したと記録されている。祠は室町時代の様式を具え極めて貴重な建造物で、町文化財に指定されている。



萩山神社拝殿

社殿配置図

荒神社 諏訪社 八幡社
 拝殿



荒神社

諏訪社

○八幡社 祭神菅田別命（応神天皇）。
 建立不詳だが嘉禎3年（1237）頃松岡氏は鎌倉幕府に奉仕参向していたので、源氏の崇敬の篤かった鶴岡八幡宮を勧請したと伝えられている。
 ○荒神社 祭神素戔嗚命・三玉荒神。
 延元3年（1338）、松岡城主、道山心公居士が安養寺建立の折、寺の守護神として三宝荒神を祀った堂（今の下の宮荒神社）であったが、明治40年（1907）内務省訓令により、大正2年（1913）萩山神社に遷宮合祀された。朱塗の社殿で室町時代（1392～1573）の作。祠は元禄時代（1688～1704）の様式を具え、貴重な建造で、町文化財に指定されている。

2 旧下市田学校

〔三区〕

〔所在地〕下市田保育園北隣

明治19年（1886）3月火災で焼失し、村民の熱意と協力により、明治21年（1888）2月竣工。その後改造されたが、明治中期以前の校舎は全国でも数少なく、貴重である。特に洋風に唐破風を配した中央玄関は珍しい。

昭和8年（1933）7月市田小学校（本校）へ完全統合された。その後、青年学校、戦後は下農高校の分校として使用した。取り壊しが計画されたが、昭和55年（1980）有志により保存会を結成し管理してきた。

昭和56年（1981）町の有形文化財に指定された。平成20年（2008）9月から屋根と白壁の大修理と内装ガラス戸など補修工事がなされた。



旧下市田学校



現 下市田保育園

③ 旧下市田公民館

〔三区〕前古瀬



旧下市田公民館



現在の区民会館

下市田区政、公民館活動の拠点として、昭和30年（1955）初めから区有林売却代金を基に区民総意により着工、34年（1959）10月15日竣工した。

体育館兼講堂、会議室兼結婚式場、集会室、研修室、図書室、調理室など装備して、当時近隣に見られない近代的建物で下市田の顔だった。

工事費は500万円余、工事請負は三六組。写真前面の田圃は現在、駐車場になっている。平成9年（1997）区民会館として全面改築した。

④ 御射山社

〔三区〕角田原



御射山社



角田原 御射山社の森

遠く古代、諏訪神社の祭神、建御名方命が八ヶ岳の原野で、青萱の穂で仮屋を葺き、宿舎として狩猟をしたことに起因しているといえられてきている。

時代は降って鎌倉幕府は全国の武將をこの神事に参加せしめ、故事に倣って騎射武芸を競わせた。参向した武將達は挙げて諏訪大明神の御分霊を拝戴して、自領地内に分社を奉斎した。それに併せて御射山神事が迎えられた。

当時御射山社は、松岡氏第四代領主たきわ帯刀が、寿永年代に勧請し角田原に祀ったのが始まりで、萱の穂屋を作り永々旧制を伝え、神事を守って今日に至っているのである。町の無形民俗文化財に指定されている。

⑤ 宝篋印塔 ほうきょういんとう
三三三

室町時代(1392~1573年)推定
【所在地】安養寺の墓地内



宝篋印塔



安養寺の宝篋印塔

墓地内に、松岡氏の供養塔として伝えられる高さ1メートルほどの宝篋印塔がある。相輪のうち宝珠及び請花(塔の最上段の円柱)を失っているが、室町時代(1392~1573)の作と推定される。また、中央の丸石二個は後世に入れたものではないかと言われている。安養寺開基の松岡貞景の墓塔とも言われている。

⑥ 上沼元仙筆塚 うえぬまげんせんふでづか
三三三

天保3年(1832年)建立
【所在地】荒神様の西隣、上沼清一氏の墓地内



上沼元仙筆塚

上沼家一族は江戸時代(1600~1867)、神主・医業兼手習の師匠であった。先祖、元仙に教えを受けた弟子が成長して、師への報恩に建立した。筆塚とは、もともと使った古い筆を、供養のため土へ埋めたところを筆塚と言った。また、弟子が師への報恩に建立した記念物も筆塚と言った。石碑に「当村手習子中」と刻まれている。

7 間ヶ沢の蚕玉様

三三三

嘉永5年(1852)2月建立
 【所在地】間ヶ沢川端・間ヶ沢耕地
 講中(間ヶ沢と四区北部)

養蚕業が盛んな頃は、毎年7月5日、講中の者たちが集い無病豊産を祈願し、碑前で持ち寄りのお肴重を拵げて講員仲間の親睦を図ったが、祭りも養蚕業の衰退と共に今は行われなくなつた。



間ヶ沢の蚕玉様(蠶玉大明神)



蚕玉様の遠景

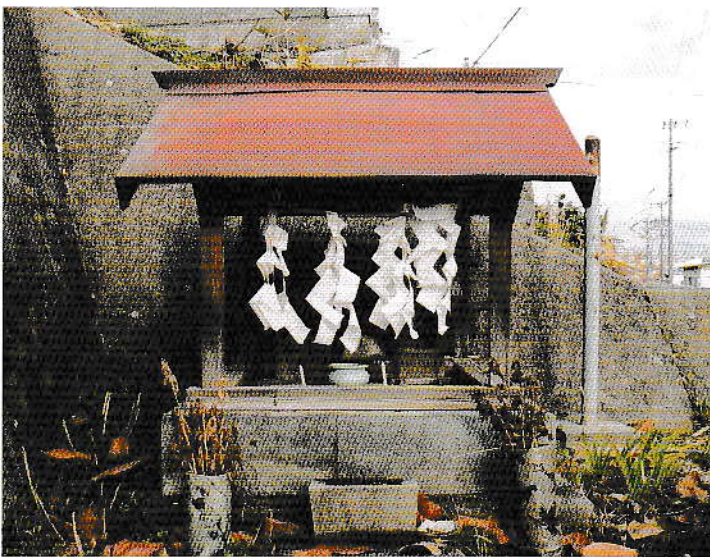
8 十三塚

三三三

【所在地】力東・上沼芳子氏宅裏上
 坂牧義夫氏土地

十三塚は元は道路沿いにあつたが、道路拡幅の為め段丘の、中段に移動した。事の起こりは、天正10年(1582)織田軍勢が南方の吉岡城(下条)を攻め落とし飯田城にせまりつつあつた。

飯田城を守備した将兵は、勝ち目なしと城を脱出した一群が市田に來た折り、追いかけて來た織田勢と戦いとなり、飯田十名、織田三名、この戦いで十三名が死に果てた。武士たちの妄念が土地にしみ残つており永年の間には住む人々になにかと災厄を及ぼしたらしく、その魂を鎮めるため人々が祠を建てて祀っている。近くには古墳跡が散在しており、斬殺された十三名の慰霊のために古墳になぞらえて十三塚と呼ぶ習わしとなつた。毎年春、秋と二回祭事を行っている。



十三塚



十三塚の遠景

9 安養寺の十王様

あん しょう じ じゅう おう さま

三三三

【所在地】安養寺境内の南口

南入口に十王堂がある。木像の十王様が安置されている。元は中村の大門（現在は新井庄一氏宅の所）にお堂があったが、江戸時代（1600〜1867年）の終わり頃、安養寺へ移された。江戸中期の作だが、作者は不明である。

十王経にもとづいた庶民信仰である。亡者は冥土（あの世）で、十王様に生前の罪を裁かれて、次の世は何に生まれ変わるか決められると言う。生前に供養すると罪が軽くなり、また亡者のために供養すると罪が軽くなると言われている。

十王様とは、秦広王、初江王、宋帝王、伍官王、閻魔王、變成王、泰山府君、平等王、都市王、五道転輪王（五道輪回王）である。

像の他に、人頭杖、浄玻璃の鏡、天秤等を象ったものが置いてある。

※一区の十王堂を参照する。



安養寺の十王様



十王堂

10 梵網経

ぼん もつ きょう

（町文化財指定）

三三三

【所在地】安養寺

松岡城主第九代松岡貞景が延元3年（1338）に安養寺を開創している。その貞景は元和3年（1354）に亡くなって、その三十三回忌の法要が行われた。

その時に、その子兵部小輔貞政は華嚴経、その他五部の大経二百巻を印刷刊行して、これを安養寺に奉納した。現在は上下二巻のみ安養寺に残され、この二巻には貞政自筆の奥書がされ、松岡氏、安養寺に関する最も貴重な文献である。



梵網経

⑪ 忠魂碑 ちゆうこん び
 三三三

昭和5年(1930)4月建立
 【所在地】萩山神社境内



忠魂碑

昭和3年(1928) 下市田の在郷軍人会の発議により、各方面から多くの協力を得て建立に着手。下市田住民の勤勞奉仕によって建設され、昭和5年(1930) 4月3日除幕式が盛大に挙行されている。

揮毫は、元帥伯爵 東郷平八郎(弘化4年(1847) - 昭和9年(1934))。碑文原本は表装しており、萩山神社所蔵で、平成20年(2008) 12月から町の歴史民俗資料館に寄託保管されている。

毎年春と秋に萩山神社・下市田区・遺族会により、忠魂碑前庭において祭事が執り行われている。

⑫ 恩師小川昌成先生頌徳碑 しんとう とく び
 三三三

昭和17年(1942)11月建立
 【所在地】萩山神社忠魂碑東隣

先生の門人有志一同が建てた。題字の(頌徳)は、時の文部大臣従三位勲二等橋田邦彦氏の書である。

小川先生は安政2年(1855) 松本に生まれ長じて、小川家の嗣子と成った。県内各地で教鞭を執られて、明治28年(1895) 6月から大正4年(1915) 3月迄、下市田学校長として郷党の指導に尽くされた。

この碑文は曾ての門人代表、市田村長松島喜代太郎氏の撰に依る。萩山神社宝蔵庫の裏に先生の教員住宅があつて、早春に親しんだであろう色濃く美しい八重紅梅が残されて、先生の遺徳を忍ぶ縁よすがとなっている。



遠景



頌徳碑

13 法塔

【三区】

【所在地】小川健三氏の墓地



法塔

建立は明らかでないが、寛永時代（1624〜1644）の作とも伝えられている。

法塔は教典を供養した塔で、これを礼拝すれば罪は一時に消え、災害を免れ死後極楽に生まれ代わると言われた信仰があった。後世になって、墓塔または祖先の供養としても建てられた。

14 大庭天白

【三区】

【所在地】大庭・仲平真司氏宅裏

代表湯澤隆弘氏

豊川稲荷様をお迎えして、天白様として天地創造の神として、古くから信仰の中心となってきた古層の神である。

未来永劫に守護保存したい貴重な神社である。毎年3月28日には、赤い旗を立てて祭事を行っている。

※二区・五区の天白を参照する。

大庭天白



15 間ヶ沢の道標

【三区】

【所在地】下市田四区生活改善センター西にある道標から、松岡城の東麓を進んで来た古道が間ヶ沢川を渡った現三区の地点で、右と左に分かれる所。

建立は不明なるも、史記に依ると、第35代（642〜645）皇極天皇（女帝）の代に勅命で、座光寺の本田善光に、「水内郡芋井の里（現長野市）へ如来を移せ」と告げられ、善光命に従って芋井の里へ遷座したとあるので、それ以後に、道中諸所に「せんこうじ道」の道標が建てられたものと推考される。

一方右の「原町」とあるのは、飯田から片桐の間宿場町で、一例を上げれば、信濃屋・扇屋・中野屋・高野屋・井桁屋・間屋・江戸屋・辰巳屋・榊屋・金屋・橘屋・萬屋・与津屋等々、宿や店が軒を連ねて、往来が賑わった所への標と思われる。先の戦争後まで、人等しく「原町」と呼んでいたことが思い出される。



間ヶ沢の道標

16 下の宮荒神社

【所在地】大庭



荒神社



荒神社遠景

荒神社の祭神は、素戔鳴命であるが、もとは延元3年(1338)松岡城主、道山心公居士が、安養寺建立の折り、寺の守護神として、三宝荒神を勧請した堂である。
降って、明治40年(1907)に内務省訓令に依り、大正2年(1913)萩山神社へ遷宮合祀されたが、疫病発症に依り郷民の協議の結果、大正14年(1925)新殿を造営。上社から分霊奉祀して、今日に至って居る。

17 枝垂れ桜・槇の木

【所在地】

登録文化財指定天然記念物

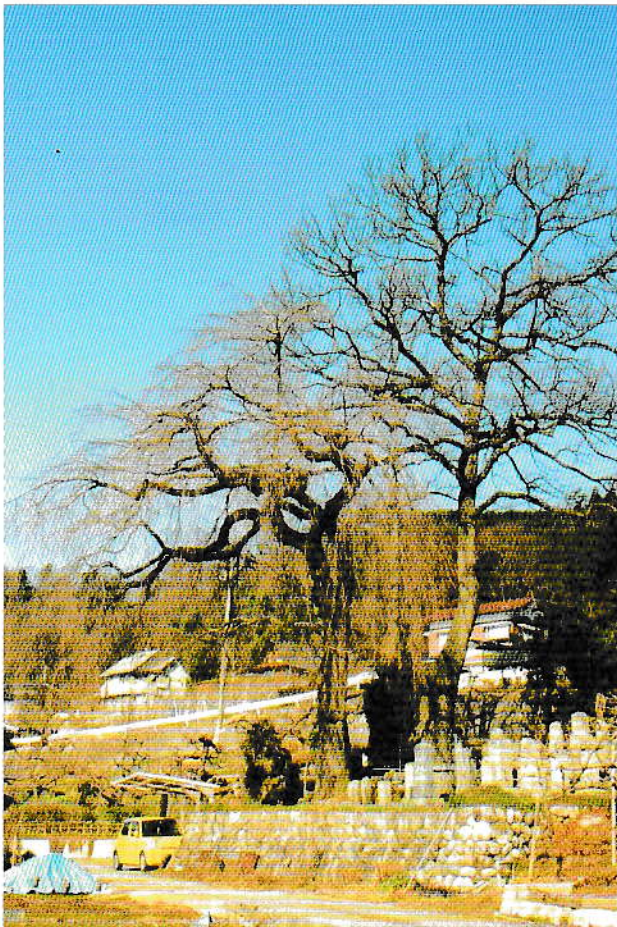
【所在地】萩山神社前 橋都家の墓地内

日本花の会の森田和一氏の要望により、飯田市北方の文吾林造園の樹木医原孝昭氏により診断を受ける。

その結果、樹齢五百年はあったであろう老木の、実生より発芽した二世であるが、二百年以上であると聞かされており、古木の多い郡下の中でも優れた老木であり、適切な保護・保存を行うよう要望された。・・・とする診断結果が報告されている。

追記

同じ墓地内にある槇の木は桜より更に樹齢を重ねた古木で、保護・保存するよう要望されている。



枝垂れ桜と槇の木